

柔道場の畳を寄贈

二村教授に感謝状 名古屋大

名古屋大（千種区不老町）は二十七日、同大の柔道場に畳を寄贈したとして、柔道部長兼師範、名大医学系研究科の二村雄次教授（63）に感謝状を贈った。

二村教授は定年退職を機に、「四十年以上世話になった道場に恩返しをしたい」と、退職金から道場用の畳百三十五枚（約二百四十万円相当）を購入。二十四日に部員らで畳替えをした。

二村教授は、平野真一学長から感謝状を受け取り、「道場の気分が一新された。多くの新入部員に入ってほしい」と語った。今後も師範として後輩指導にあたるという。

この日は畳替えを記念し、名大の柔道部員十人と県内の中高生ら約六十人が合同練習し、新しい畳の感触を確かめた。古い畳のうち六十枚は、名大柔道部と合同合宿などを行っている向陽高校（昭和区広池町）へ、残りは国際協力機構（JICA）を通じて、二村教授の知人が柔道の普及活動をしているラオスへ運ばれる。